

---

# 某日の詩

ハルキゲニア

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

某日の詩

### 【Nコード】

N5524BA

### 【作者名】

ハルキゲニア

### 【あらすじ】

某日私は床屋へ行き、某日私は電車に乗った。某日私は悲しみに伏せ、某日私は怒りに狂った。某日私は誓いを交わし、某日私は掌を返した。某日私は神に慈悲を乞い、某日私は悪魔に魂を売った。今日私は某日の事象を喚起し、想いを反芻する。年表に載る価値のない細事を雑然と並べて慈しむ。やがて某日と化す今日に漠然と期待をしながら。

## 1 (前書き)

某日私は床屋へ行き、某日私は電車に乗った。某日私は悲しみに伏せ、某日私は怒りに狂った。某日私は誓いを交わし、某日私は掌を返した。某日私は神に慈悲を乞い、某日私は悪魔に魂を売った。今日私は某日の事象を喚起し、想いを反芻する。年表に載る価値のない細事を雑然と並べて慈しむ。やがて某日と化す今日に漠然と期待をしながら。

## 【風に揺れる某日の羽根】

微かな風にさえ揺らめくひとひらの羽毛を

そっと両手で包み込むようにあなたは微笑わらいました。

そしてその柔らかな羽毛を差し出して、

僕にくすぐったい肌触りを教えてくれましたね。

あなたのことを思い出す度に

あの感触が僕の心臓を撫であげて、

可笑しいような、哀しいような、落ち着かない心地にさせるのです。

あなたは風に舞う小さな羽毛を見つけるのが上手かった。

今度そのやり方を

もう一度僕に教えて下さい。

## 【某日の呪いとその代償】

もはや修復困難な亀裂から

とろりと、

石油のような液体が滴っている。

壊死した肉体からにじみ出る腐汁の色だ。

なんともおぞましい色だ。

その雫が伝った後には

どんなに洗っても消えない筋が残っている。

こんなものが内側に溜まっているなんて思わなかった。

これが呪いの代償。

天に唾を吐いた後に訪れる当然の帰結。

ならば私はあえてその腐汁を飲み下そう。

亀裂に舌を這わせ、その汚らしい液体を全て舐めとろう。

呪いを解くつもりはないから、

せめて、これ以上みじめにならないように。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5524ba/>

---

某日の詩

2012年1月15日02時51分発行